

ブラジル金融政策（2026年3月）

慎重ながらも利下げ局面へ移行

2026年3月19日

イラン情勢を巡る不確実性の高さ故に、今後の政策判断は流動的

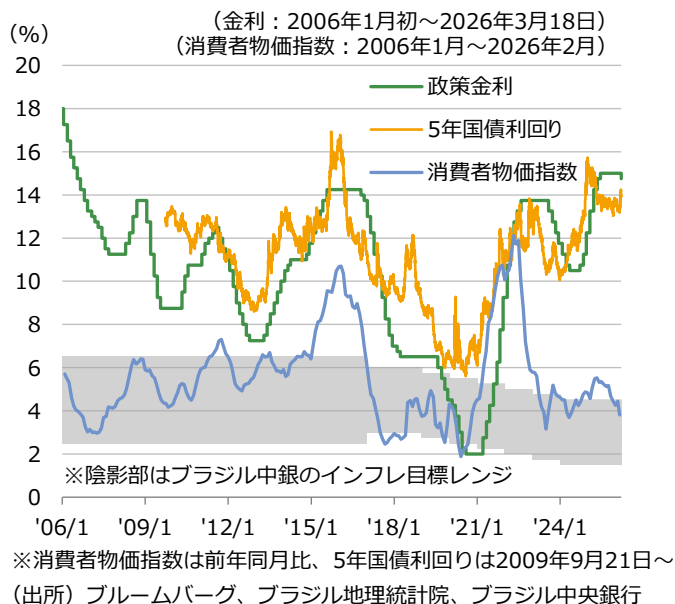
ブラジル中央銀行は3月17～18日（現地）に金融政策決定会合を開催し、政策金利を15%から14.75%に引き下げることを決定しました。市場では、2月末までは0.5%ptの利下げが予想されていたものの、イラン情勢緊迫化による原油高を受けて0.25%ptの利下げ予想に傾いたため、サプライズはありません。

同行は昨年6月の利上げを最後に政策金利を15%に据え置いていましたが、今回の声明文で「政策金利を引き締める水準で長期にわたり維持したことで、金融政策が景気減速に波及していることを示す十分な証拠が得られたため、利下げ開始が適切であると判断した」と記しました。2月の消費者物価指数は前年同月比+3.8%まで伸びが鈍化するなど、少なくとも2月まではインフレを取り巻く環境が明確に改善していました。しかし、足元の原油高でインフレ見通しの不透明感が強まっており、同行は「今後の政策金利の調整は、中東における紛争の深刻度や長期化の度合い、およびそれらがインフレに及ぼす直接的・間接的な影響に関する新たな情報を反映させる」と、当面の利下げペースは流動的であることを示しました。

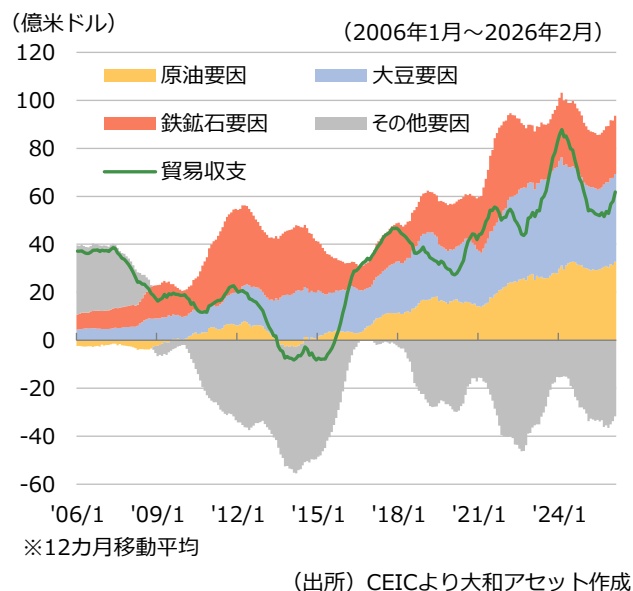
なお、近年のブラジルは原油輸出国として存在感を高めており、2月末以降のリスク回避姿勢の強まりに対して原油高が支えとなることで、ブラジル・レアルは底堅く推移しています。原油価格の上昇は世界経済全体および主要な金融資産にとってネガティブな中、その恩恵を受けやすいブラジル・レアル建て資産は分散投資先としても注目を集めやすいでしょう。

（執筆：調査部 岩手幸久）

ブラジルの金利とインフレ率



ブラジルの貿易収支とその要因分解



当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management